

四国ブロックにおける社会資本整備重点計画の方向性について  
～有識者懇談会における意見～

1. 日時： 令和3年5月18日（火）WEB会議
2. 有識者： 徳島大学大学院総合科学部 教授 豊田哲也  
徳島大学大学院社会産業理工学研究部 教授 武藤裕則  
香川県立保健医療大学 教授 高嶋伸子  
四国ツーリズム創造機構 事業推進本部長 桑村琢  
愛媛大学大学院理工学研究科 教授 森脇亮  
いよぎん地域経済研究センター 所長 重松栄治  
高知大学教育研究部自然科学系理工学部門 教授 原忠
3. 主なご意見
  - 重点目標6の中で「脱炭素化」と「人を中心に据えたインフラ空間の利活用」が一緒になっているため内容が分かりにくくなっている。
  - 6つの重点目標の内、「インフラメンテナンス」「デジタルDX」「脱炭素化」は3つの目的を達成するための横断的目標として並びを工夫すべき。
  - 小目標同士を組み合わせて実施すると相乗効果が期待される。
  - 観光活性化について、四国の強みである海に関して受け入れ環境改善等の取組を推進してほしい。
  - インフラメンテナンスの民間の技術力向上についても国交省主導で進めて欲しい。
  - インフラは官民を超えていろいろな方に活用頂くことにより付加価値が付いてくる。
  - ICTやAIが新たな日常を生み出すためにどのように寄与するのかイメージできるよう表現してほしい。
  - DXについては既存インフラの高度利用や先端技術との統合ということを考えるべき。
  - 四国の社会資本の整備・管理においてデジタル技術や先進技術を積極的に活用していくことを強く希望する。
  - 脱炭素化はさらに四国の付加価値を高める上でも今後重要な施策になる可能性があり具体的な計画を立てるとより良いものになると思う。

以上

別途、令和3年4月から6月にかけて、地方公共団体、経済団体などの方からもご意見を伺った。